

令和5年度 ドリームプラン ロリィタファッションのコレクション制作  
家政学部服飾美術学科4年 M.M

はじめに

小さい頃から自分の外見が好きになれず、太陽に照らされて出来た影に理想を詰め込んで羨むような生活を送っていました。それなので、私にとって洋服やメイクは醜い自分を隠すための鎧であり、呪いを解くための魔法なのです。今はそんな魔法を使って、誰かの呪いを解けたらと願っています。

1. 応募した目的

私自身ロリィタファッションが好きなのですが、「自分には似合わないのではないか」「いつまでこの服を着続けられるのだろうか」と不安を抱えていた時期がありました。私以外にも「好きな服を好きに着られない苦しみ」を抱えている人がいると知り、それを少しでも和らげようと考えたのがきっかけです。「ロリィタはこういうものだ」という考え方は、ロリィタを愛する人の数だけ存在します。つまりここで制作した衣装を「ロリィタではない」と考える人もいます。しかし、これをロリィタとして発信することでハードルを下げ、誰かが一歩を踏み出すきっかけになればいいと考えました。

2. 衣装制作上のテーマ



「Ombrée Parfait」

ゴシックロリィタらしく優雅でダークな印象をも与えたかったので、Ombrée Parfait という薔薇の品種名をコンセプトにしました。咲き始めから終わりまで色の変化を楽しめるもので、花びら一枚一枚が織りなす濃淡が完璧なことから名付けられたそうです。また、濃い紫の薔薇は永遠の愛という花言葉を持ちます。

歳を重ねて容姿が変わっても、ロリィタを生涯愛し続けたい人たちに送る Ombrée Parfait を表現しました。

## ターゲット

性別:女性

年齢:20代~40代

- ・ロリィタは好きだけどお店に行く勇気が出ず、気軽に買えない 20代
- ・歳を重ね、顔や体型にロリィタが合っていないと感じている 30後半~40代

## 具体的なデザイン案

- ・ロリィタファッションに使用できるだけでなく、シンプルなデニムやニットトップスに合わせ、幅広い層の人が着用できるようにする。
- ・黒やディープ、ダークトーンの色を中心にする事で、フリルがあしらわれていても大人な印象を与えるようにする。
- ・コルセットやヘッドドレスなど小物の展開を充実させ、ロリィタのトータルコーディネートができるようにする



### 3. 制作課程



①OEM(パターンやトワル、サンプルを製造する企業)との打ち合わせ  
コンセプトをもとに考えたデザインをOEM業者の方と形にしていきます。  
デザイン画だけでは説明できなかった細かい部分や、実際に生活する上で支障がないかを徹底的に確認しました。  
的確なアドバイスや指摘をいただき、自分のデザインの甘さや想像力の欠如を痛感しました。

#### ②トワルのチェック・修正

具体的なデザインの決定から約1ヶ月後、試し布で全体的な形の確認と修正を行いました。思い通りのシルエットか、丈はちょうどいいか、ウエストの位置や着心地など、実際に着用して修正していきます。ここで苦労したのは、自分のイメージを的確に相手に伝える事でした。何かが違う...でもどう違うか言語化できない...と言う場面が多く、自分の考えを明確にしつつ、相手に伝わりやすくする事の重要性を強く感じました。また、時間や回数を気にせず好きなだけ修正を重ねられる学校での制作がどれだけ恵まれたものだったのかを痛感しました。



### ③生地の調達

ベースとなる生地は OEM 業者の担当者様が提案してくださったものを選択し、レースや肩紐は日暮里繊維街や新宿のオカダヤで自身が納得できるものを探しました。

レース生地にはピンからキリまであり、どこまでこだわりどこで妥協するかにとっても苦労しました。これだ！ と思う模様と手触りの物を見つける事ができてよかったです。

### ④完成

トータルチェックから約1.5ヶ月で衣装が完成しました。

自身が選んだ生地や指定したシルエットが理想通りで、汲み取ってくださった担当者様の偉大さを感じました。

しかし、チェックで使った試し布とは質感やハリが全く違うため、ドレープが少し異なっていたので、デザインの時点で予測を立てておくことが重要だと改めて学びました。

## 4. 撮影

一般人が着用しても美しくなる服であると示したかった為、自分自身がモデルに挑戦し、ゴシックロリィタの世界観を演出できるようなスタジオを借りて撮影しました。また、あえて化粧やヘアスタイルをカジュアルなアパレルブランドと同じようにする事で、より身近に感じていただけるよう工夫しました。







## 5. まとめ、感想

小さい頃からロリィタファッションのブランドを立ち上げるとい夢があった為、衣装制作に挑戦しましたが、ロリィタファッションと実用性を両立することの難しさを改めて感じました。学校での制作とは違い、企業の方との打ち合わせや撮影など、学校では学べない実践的なスキルを培うことができました。後援会ドリームプラン奨学金の制度を活用する事で、資金問題を気にする事なく活動に取り組み、ロリィタの魅力を広めやすくなったと思います。